

千曲川（峰章山）

草枕 春は 淡し 千曲の 川

独り 旅をす 信州 信濃の 辺

笛音 遠く 聴く 円舞の 曲

翠山 碧水 流雲の 天

草枕春淡千曲川 独旅信州信濃辺

笛音遠聴円舞曲 翠山碧水流雲天

解説 長野県を流れる千曲川を詠った詩。

語釈 ※草枕 道旅先で、草で仮に編んだ枕の意から

旅寝すること。旅先でのわびしい宿り。くさのまくら。※千曲川

信濃川と呼ばれている部分が一五三キロメートルなのに対し、

千曲川と呼ばれている部分は二一四キロメートルと千曲川の方が

長い。ただし、河川法上では千曲川を含めた信濃川水系の本流を

信濃川と規定しているため、信濃川は日本で一番長い川となって

いる。※信州信濃 長野県。※円舞 人々が円く輪の形になって

踊る舞踏。※翠山 青緑色の山。※碧水 青緑色に深く澄んだ水。

通釈 淡い春の千曲川の旅。一人で巡る信州信濃の辺を探索する

と、遠くから聞こえてくる笛の音は円舞の曲であろうか。天を眺

めると流れる雲が。周りの景色は青緑色の山、そして青緑色の川

が、春の旅を楽しませてくれる。